

他者との関係構築的な社会認識形成を評価する中学校社会科の ペーパーテスト事例その2

〔問 題〕

けん君とゆりさん達はテーマ「日本の食料自給率は低いのか？」について立場を決めた討論学習の準備をしています。論点は次の通りです。

論点1：なぜ、食料自給率は減少しているのか？

論点2：なぜ、カロリーベースと生産額ベースで食料自給率が異なるのか？

論点3（結論）：日本の食料自給率は低いのか…私たち日本人の食生活は大丈夫か？

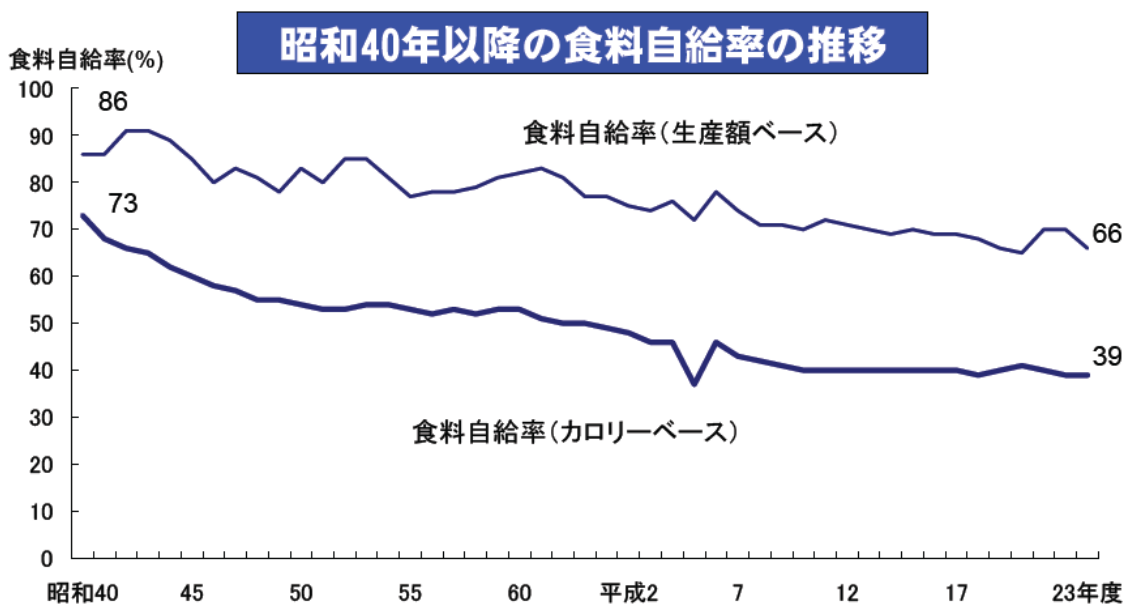
けん君は、「低いとはいえない」の立場から意見をするために、以下のように論点を整理することになりました。次の各問いについて、(1)～(3)はけん君の立場から、(4)はあなた自身の考えを答えなさい。

- (1) 論点1を明らかにするため、けん君が用いるべき資料はどれですか。原因と結果に用いるべきものを資料A～Fから選び、それぞれ記号で答えなさい。
- (2) 論点2を明らかにするため、けん君が用いるべき資料はどれですか。原因と結果に用いるべきものを資料A～Fから選び、それぞれ記号で答えなさい。
- (3) 資料A～Fを適宜活用し、けん君の立場から、結論としての論点3について主張しなさい。その際、ゆりさん達の立場（「低い、大丈夫ではない」）からの反論をあらかじめ予想し、より説得力のある主張に仕上げること。
- (4) けん君、ゆりさんどちらの立場もふまえ、このテーマにかかわって、あなた自身が自分なりの結論を導き出すために、これから先、どのようなことに着目していけばよいと考えますか。着目することとその理由を簡単に記述しなさい。

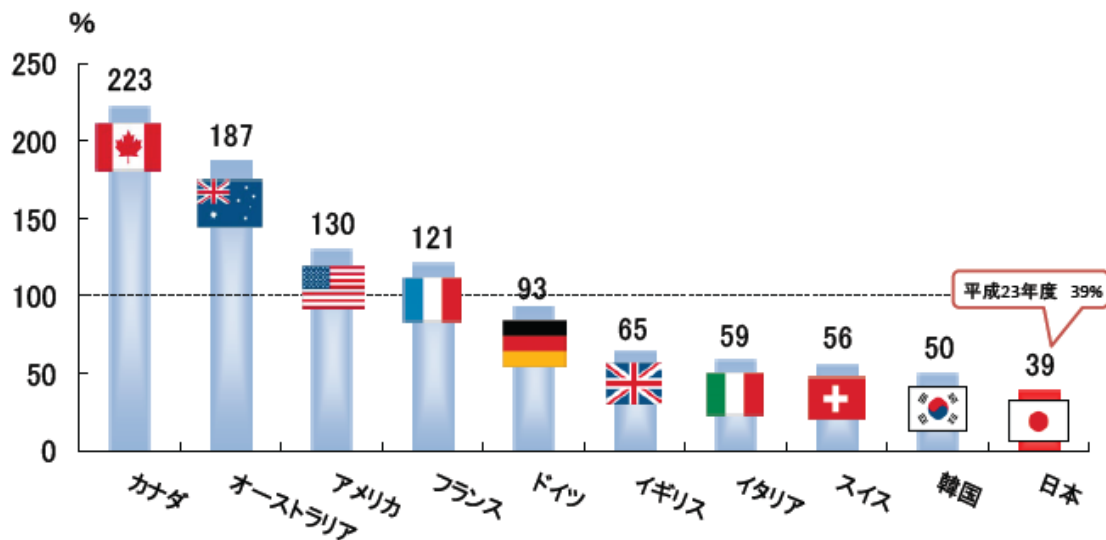
〔資料出典〕 資料A～F全てのグラフ及び表は以下のサイトから引用した。

農林水産省 HP 食料自給率の部屋 <http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/index.html>

資料 A. 昭和 40 年以降の食料自給率の推移



資料 B. 先進国におけるカロリーベースの食料自給率（平成 23 年）



資料C. 生産額ベース・カロリーベースの食料自給率の各国比較（平成15年）

試算結果 平成15年

	オーストラリア	アメリカ	フランス	オランダ	ドイツ	日本	イギリス
生産額ベース	155	102	101	96	75	70	40
カロリーベース	237	128	122	58	84	40	70
穀物自給率	333	132	173	24	101	27	99

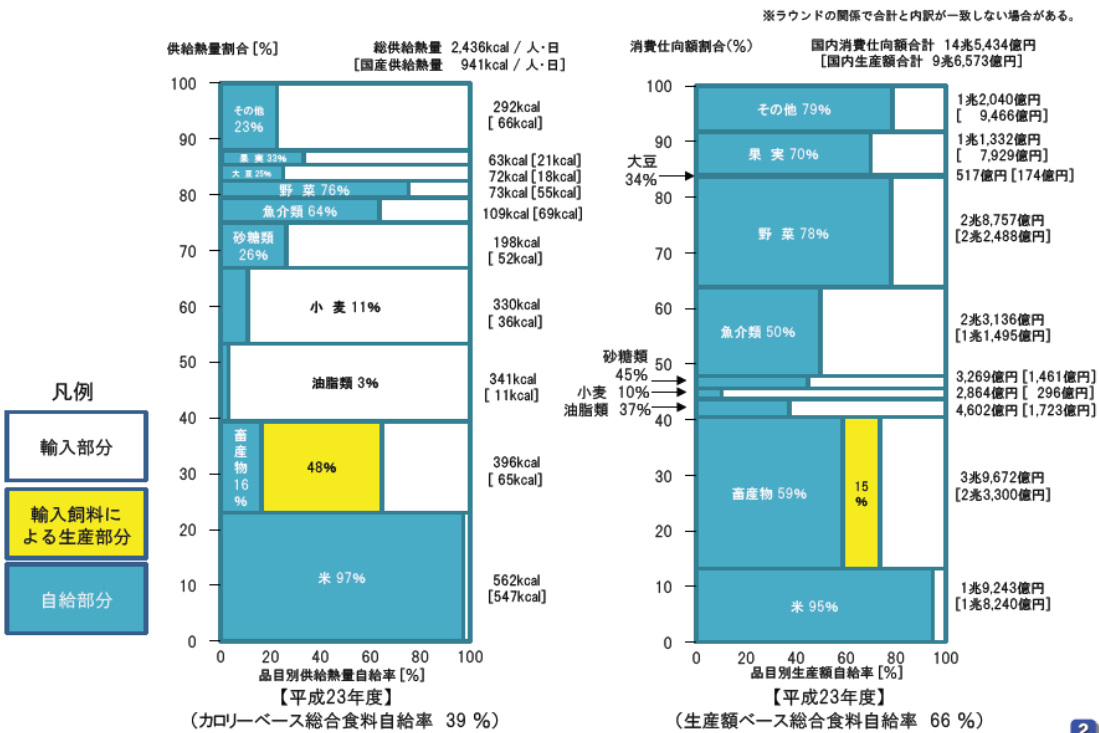
資料：農林水産省「食料需給表」、FAO "Food Balance Sheets"等を基に農林水産省で試算した。

注1：日本は平成15年度の数値。

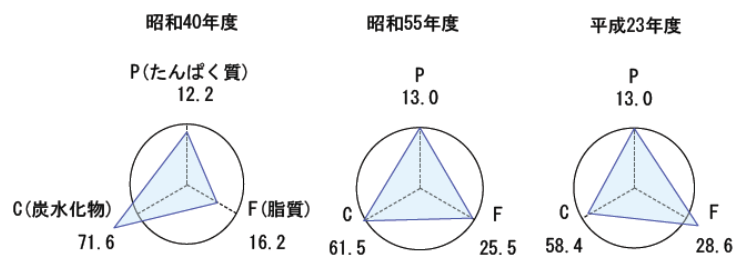
2：各品目の国産単価及び輸入単価については、FAO（国際連合食糧農業機関）のPrice STAT及びTrade STAT等より算出。

資料D. わが国における生産額ベース・カロリーベースの食料自給率比較（平成23年）

カロリーベースと生産額ベースの総合食料自給率（平成23年度）



資料E. 供給純食料の推移（国民1人・1年当たり）

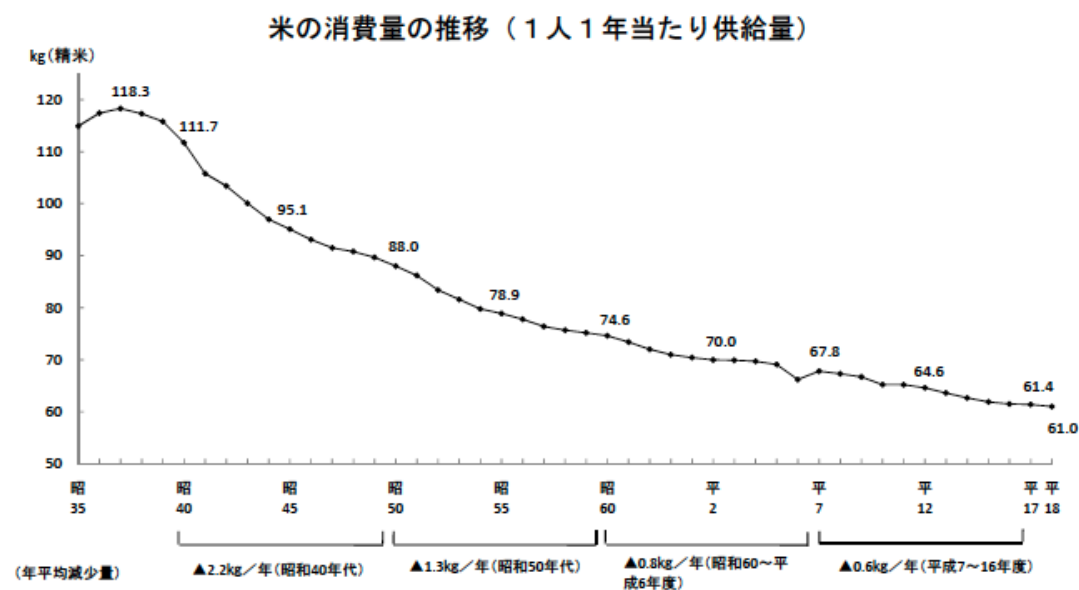


○ 国民1人・1年当たり供給純食料の推移

(単位: kg)

年度		穀類		（単位：kg）											
				いも類	でんぷん	豆類	野菜	果実	肉類	鶏卵	牛乳・乳製品	魚介類	砂糖類	油脂類	
		うち米	うち小麦												
昭和	40	145.0	111.7	29.0	21.3	8.3	9.5	108.1	28.5	9.2	11.3	37.5	28.1	18.7	6.3
	50	121.5	88.0	31.5	16.0	7.5	9.4	110.7	42.5	17.9	13.7	53.6	34.9	25.1	10.9
	60	107.9	74.6	31.7	18.6	14.1	9.0	111.7	38.2	22.9	14.5	70.6	35.3	22.0	14.0
平成	7	102.0	67.8	32.8	20.7	15.6	8.8	106.1	42.2	28.5	17.2	91.2	39.3	21.2	14.6
	14	96.0	62.7	31.9	19.9	17.2	9.3	97.4	42.0	28.4	16.8	92.9	37.6	20.0	15.0
	15	96.0	61.9	32.6	19.5	17.5	9.4	95.9	39.8	28.2	16.7	93.0	35.7	20.0	15.0
	16	95.2	61.5	32.3	19.9	17.5	9.3	93.8	41.5	27.8	16.5	93.9	34.6	19.9	14.4
	17	94.6	61.4	31.7	19.9	17.6	9.3	96.3	43.1	28.5	16.5	92.0	34.4	19.9	14.6
	18	94.2	61.0	31.8	19.5	17.6	9.2	94.9	40.0	28.1	16.7	92.2	32.8	19.5	14.5
	19	95.0	61.4	32.3	20.3	17.5	9.2	94.5	41.2	28.2	17.1	93.3	32.0	19.8	14.4
	20	91.5	59.0	31.1	19.5	16.9	8.8	93.6	40.1	28.6	16.8	86.3	31.5	19.2	13.8
	21	91.6	58.5	31.8	19.3	16.4	8.6	90.9	39.0	28.6	16.6	84.8	30.1	19.3	13.1
	22	93.4	59.5	32.7	18.6	16.7	8.4	88.1	36.6	29.1	16.5	86.4	29.4	18.9	13.5
23（概算）		91.9	57.8	32.8	19.0	16.8	8.3	91.1	37.3	29.6	16.6	88.6	28.6	18.9	13.5

資料 F. 米の消費量の推移



資料: 農林水産省「食料需給表」

注: 年間の国内の食料消費量として仕向けられた数量を総人口で除した値であり、飼料用、種子用、加工用(酒類、みそ等)の米は含まない。なお、加工米飯、もち、米菓、米穀粉は含んでいる。

本事例は以下のように「かかわりの知」による関係構築枠組を意図した設計となっている。

社会事象間の関係（係わり）・・・関連性

- 事実関係の認識構築・・・小問(1)及び(2)
- 価値関係の認識構築・・・小問(3)及び(4)

認識主体間の関係（関わり）・・・他者性

- 回答者（けん君）とは異なる立場，認識，判断の他者（ゆりさん）との対話的交渉が前提
 ……小間③：特に，「解答例」の下線が該当部分

社会事象と認識主体の関係（拘わり）・・・状況性

- 食の安全に関する社会論争問題としてのパフォーマンス課題 …小問(3)及び(4)
- 立場を決めた討論学習の学習活動遂行としてのパフォーマンス課題 …小問(3)及び(4)

[解答例]

- (1) 原因・・・EとF，結果・・・A
- (2) 原因・・・D，結果・・・C
- (3) 「低いとはいえない」・・・資料EとFより，米の消費が減りパン食が増えたのでその原料の小麦や乳製品など脂質，さらに大豆やトウモロコシなど輸入穀物を飼料とする肉など畜産物を多く消費するように日本人の食生活が変化したことが原因で，資料Aのとおり生産額ベース，カロリーベースどちらも食料自給率が減少した。同時に，資料Dのように，このことは，カロリーベースの食料自給率があまりに低く計算される原因となっているが，資料Cのように，生産額ベースで見れば，70%近くの食料自給率を確保できている。この意見について，パン，乳製品，肉類を食べられなくなってしまうという反論に対しては，資料Dの畜産物を見れば，輸入される小麦や油脂類の多くは家畜の飼料であり，直接私たちの食料原料になっているわけではないこと，主食である米はほぼ100%近く食料自給率を確保できていることがわかるから，問題は深刻ではないことが主張できる。だから，私たち日本人の食生活は大丈夫といえる。
- (4) 日本人の食生活の変化と生産額及びカロリーによる食料の輸出入を根拠に日本の食料自給率の問題を考えたが，今後，①農家の高齢化により，米作りなど日本の農業は今日の生産を維持できるのか，②少子化が進むと海外から食料輸入も減らしてよいのではないか，この2点に着目して，食料自給率の変化から日本の食生活が大丈夫か，考えていく必要がある。